

【第12期】

第2回 長野県生涯学習審議会 次第

日時 令和4年2月4日（金）

午前10時から正午まで

【オンライン開催】

1 開会

2 教育長あいさつ

3 会議事項

(1) 審議の進め方

(2) 意見交換（生涯学習の振興について）

①グループ討議

②全体共有

(3) その他

4 閉会

【資料】

資料1 長野県生涯学習審議会（第12期）の進め方

資料2 ①第1回生涯学習審議会要旨

②第1回生涯学習審議会 意見・課題

資料3 第1回生涯学習審議会議事録

参考 「これからの長野県を考える有識者懇談会」概要

長野県生涯学習審議会委員名簿

文化財・生涯学習課

委嘱委員 15 名

(五十音順 敬称略)

氏 名	役 職 等	グループ
あきば よしえ 秋葉 芳江	長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター（C S I）専任チーフ・キュレーター	A 職務代理
いずみやま りな 泉山 莉奈	大学生	B
いとう みちこ 伊藤 美知子	元長野県 P T A 連合会 副会長	B
こいけ れいこ 小池 玲子	長野県社会教育委員連絡協議会 会長	B
せき まさひろ 関 正浩	長野県白馬高等学校 校長	A
ちの たいせい 千野 泰聖	大学生	A
ながみね なつき 長峰 夏樹	長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター 所長	B
にし かずお 西 一夫	信州大学教育学部 教授（副学部長）	会長
ひぐち まさゆき 樋口 正幸	合同会社 小滝プラス 代表社員	B
ふかの かよこ 深野 香代子	K O A 株式会社 顧問	A
ほりうち きぬよ 堀内 絹予	上田市立神科小学校 校長	B
まつだ あきひろ 松田 晶弘	ボランティア従事	A
めんじょう よしたか 毛受 芳高	一般社団法人アスバシ 代表理事	A
もりた まい 森田 舞	ゆめサポママ@ながの 共同代表	A
やなぎさわ れいこ 柳澤 礼子	佐久市中央公民館 館長	B

任期：令和3年（2021年）5月1日から令和5年（2023年）4月30日まで

長野県生涯学習審議会（第 12 期） 審議の進め方（R4. 2 案）

文化財・生涯学習課

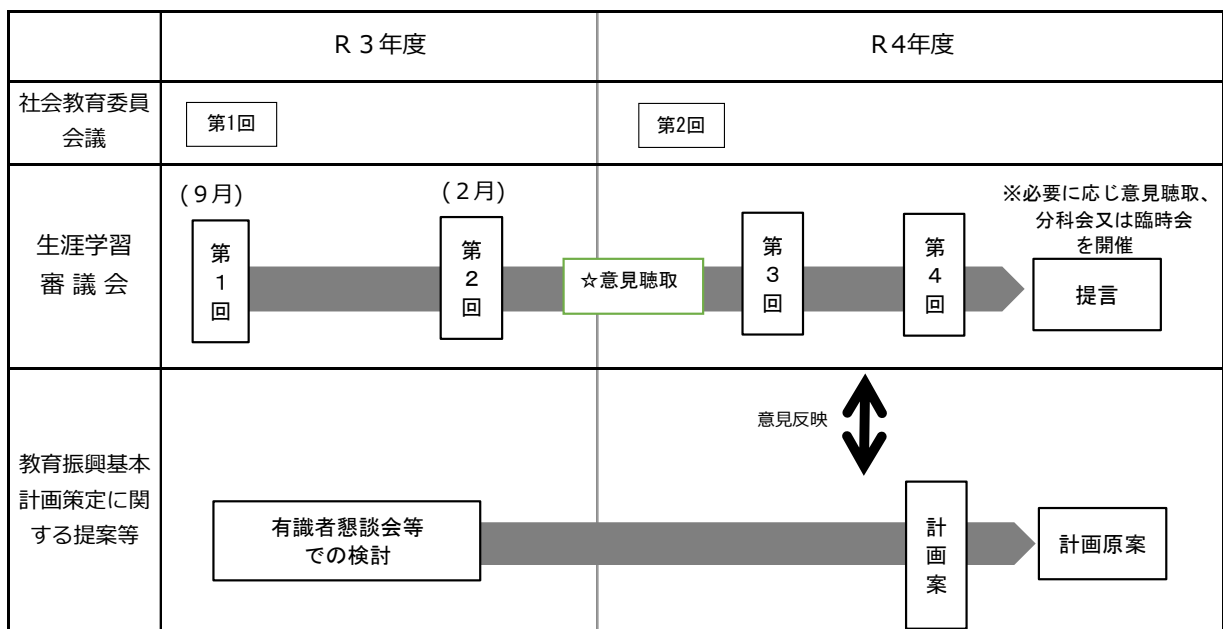
1 審議事項

- 近年の社会の変化を踏まえた本県の生涯学習・社会教育の振興の基本的な方向性や具体的な施策について提言をいただく。
- 今後策定予定の次期長野県教育振興基本計画をはじめとする各種計画にご意見をいただく。

※参考（生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律）

- ・教育委員会又は知事の諮問に応じ、生涯学習に資するための施策の総合的な推進に関する重要事項を調査審議する。（法第 11 条の 2）
- ・前項に規定する事項に関し必要と認める事項を当該都道府県の教育委員会又は知事に建議することができる。（法第 11 条の 3）

2 スケジュール



3 審議の進め方

【第 1 回】課題の提起

- ①各委員の生涯学習に関わる実践や課題意識の共有
- ②意見交換

【第 2 回】論点の抽出（課題の掘り下げ）

☆意見聴取（大学生～若年層、オンライン利用）

（論点整理案）

【第 3 回】基本的な方向性、重点的な施策

【第 4 回】提言（案）とりまとめ・教育振興基本計画への意見

第2回生涯学習審議会 意見交換テーマ（案）

	テーマ	キーワード	何ができるのか
A	生涯学び続けるために 何が必要か	<ul style="list-style-type: none"> ・若者（特に学校卒業後） ・二極化、社会的弱者 ・最新学習歴、バージョンアップ （リカレント・リスキリング） 	
B	持続可能な地域・社会 づくりのために、どの ような学びが必要か	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題（災害、人口減少） ・地域資源（公民館、文化遺産） ・学校、地域、NPO、企業等との 連携協働 （コミュニティ・スクール） 	
Well-being（幸福） SDG s（持続可能）			



【第12期】 第1回生涯学習審議会 意見要旨**1 若者が多世代とつながり、社会・地域で活躍するための環境づくり**

- ・今後の社会をつくっていく若者の地域の学びの場への参加が期待される。
- ・子どもや若者が地域活動に取り組む人たちの想いに触れる機会をつくるのが大切である。
- ・自分が社会の中でどうありたいかということを意識したキャリア教育が求められている。

2 社会的弱者・二極化への視点

- ・社会的弱者が未来を創るために学ぶことを支援できないか。
- ・家庭の事情で進学をあきらめたり、生活の質の向上のために学びが必要であっても、その機会を得られない人の存在について考える必要がある。
- ・学び続ける人と、学びが必要であっても学びに意識がない人の二極化があり、社会教育の恩恵を受ける人が一部の人である。
- ・SDGs 質の高い教育をみんなに。

3 生涯を通じて「心豊かに生きていく、幸せになる手段」としての学びの継続

- ・生涯かけて自分をバージョンアップさせていく、学びながら豊かに生きていく「生涯学習社会」づくりが求められている。
- ・学校をいったん卒業した人が社会の中で学ぶ手段、学びたいときに学べる環境が必要ではないか。
- ・大学等進学をきっかけとして都会へ若者が流出してしまう現状。地域に人を残すために、学校教育から社会人へと続く「学び」のあり方を改めて考えてみてはどうか。

4 持続可能な地域づくりのために「地域での学び」が大切

- ・災害への備えや人口減少など地域の課題に対応する学びの場が大切である。
- ・地域の歴史、文化遺産など地域資源の再認識が世代をつなぐツールになる。
- ・公民館（建物、活動）は貴重な資源であり、地域の自治力を高める大切な活動である。

5 学校と地域の協働推進

- ・小学校から大学まで、学校が地域とどう関わるかが重要である。
- ・地域と学校の協働のためコミュニティスクールの仕組みの活用促進。
- ・学校での学びを社会で自己展開させられるかどうか。

6 連携・協働

- ・同じ方向性の団体や地域がどうやってうまく連携・協働していくことができるかが課題である。
- ・連携・協働をすすめるために、コーディネーターの育成が重要である。

第1回生涯学習審議会（個別ヒアリング含む）意見・課題

区分	内容
若者・多世代	福祉の課題解決のために、学校との連携や若者の参加に期待
若者・多世代	高校生が防災マップを見て「Wi-Fiがないところへは避難しないのではないか」と発言したような若者の声を活かす
若者・多世代	公民館活動は男性や若者の参加が難しい分野である。積極的な参加は一部であり、すそ野を広めることが大切
若者・多世代	若者と地域をつなぐ、大学・学生と地域のつながり
若者・多世代	高齢者が持つ知識、経験、技能を結びつけて活用できれば
若者・多世代	生徒の地域理解に対するモチベーション、地域への愛着をいかに高めるか
若者・多世代	若者が地域活動に取り組む方々の想いに触れる機会をつくることできれば世代を超えて活動ができるのではないかと
若者・多世代	色々な知識と能力と経験を持った方が教える機会や場所が少ない
若者・多世代	若者が地域と関わるかどうかは幼少期の経験が重要
若者・多世代	学校での学びを社会で自己展開させられるかどうか
若者・多世代	今後の社会を動かすのはZ世代～2000年以降生まれ。その世代が消費を牽引するようになる10年後を見据えた施策を
若者・多世代	シニアを対象とした楽しくやさしく学べる機会
弱者・二極化	教育分野と福祉分野の連携により、ヘルプを必要とする人が福祉につながるよう連携強化を期待
弱者・二極化	社会的弱者に対して、学ぶことは未来を創ること
弱者・二極化	学力がありながら経済的な理由で進学できない生徒
弱者・二極化	企業へ入社後に大学等で学べるしくみがある
弱者・二極化	家庭の事情で進学できない若者など社会的に弱い立場におかれている若者への学びの機会の提供ができないか
弱者・二極化	SDGs 質の高い教育をみんなに
弱者・二極化	子どもたちに雇用や福祉などの助け合いの仕組みを学んで社会に出てほしい
弱者・二極化	学び続ける人と、学びが必要であっても学びを取得できない人の二分化が進んでいる
弱者・二極化	公民館活動に参加できているのは積極的な一部の方
弱者・二極化	生き生き、楽しくしていると多くの人たちが関心を持ち、共感してくれる
弱者・二極化	二分化しない素地を小さい時から。人生楽しむ素地を学校教育の中からも培っていききたい
弱者・二極化	関わる人と関わらない人、世代の分断が生まれている
弱者・二極化	関わり方をどうつくっていくか
弱者・二極化	学びたいと思っている人と学びに対して意識がない人との二分化
弱者・二極化	関心がある人には機会が多いが、関心のない人には機会がない
弱者・二極化	興味のないものには関わってこない。楽しめる環境
弱者・二極化	気軽に学習できる環境と、いろいろなジャンルの学習プログラムの必要性
弱者・二極化	シニアを対象とした楽しくやさしく学べる機会

区分	内容
弱者・二極化	学校教育と異なり、公民館や社会教育の恩恵が一部の人に偏りがち
弱者・二極化	良い出会いと学びの場を作ることが大事
弱者・二極化	多くの人を巻き込むには提供者→受け手という関係より、やる気のある人を増やし、朱に交われれば赤くなるというような方法が有効
弱者・二極化	大人の学びに対する関心が薄い人に対し、大人になってから学ぶことが楽しいという経験が大事
弱者・二極化	きっかけとは、楽しいと感じるぐらい、ディープよりライトがいい
弱者・二極化	参加・協力者を増やしたい場合、単なる人手としての期待や、強制ではうまくいかない
弱者・二極化	何かをやりたと思ったときに共感者がいてくれることが大事
弱者・二極化	参加・協力者が少ないという場合、うまく巻き込めていないことが多い
弱者・二極化	長野県に多数ある公民館は大きな資産であり、公民館活動という地力がある。若い人に運営を任せるなど開放していくことも必要
学びの継続	忙しいうえに時間がネットに向かう世の中、社会教育や生涯学習の中で、五感や体験を大事にしたい
学びの継続	体験的な学びの経験値が高い子ほど学ぶ意欲があり、感性が豊かで社会への視野を広くもっている
学びの継続	一生学び続けていく、一生自分をバージョンアップしていく、それは生きるためにやっていくという切実感のある力強い生涯学習が求められている
学びの継続	自己決定力、自己肯定力の弱い人々が多い。自己決定力を実践的に学ぶ機会を増やしたい
学びの継続	企業へ入社後に、責任やしつけ的なものを教育しなければならない現状
学びの継続	家庭での教育、親の生涯教育の重要性の認識
学びの継続	生涯学習は、人とのつながりを通して存在を認めあったり、居場所にもなるもの
学びの継続	大人になっても学ぶことは大切
学びの継続	学んでいる姿を子どもたちに見せることによって子どもたちも学びに対する意欲を持てるのではないか
学びの継続	定年退職後のやることを求めて県で提供する講座を受講。学んだことを生かして地域活動
学びの継続	中小企業では難しい高卒後の若者の教育を、大学や地域の学習機関が行い、働きながらキャリアをつくっていく（早活キャリア）社会づくりの発信
学びの継続	アントレプレナーシップ教育で、起業する、業を自分で立てるといようなマインドを持てる人材づくり
学びの継続	キャリア教育は自分が社会とどうつながるのか、自分が社会の中でどうありたいのかということを考えること
学びの継続	IT化が進むなかでの生涯学習、社会教育に大人がどうかかわるか
学びの継続	日常の中で学ぶことがある
学びの継続	心のゆとりと価値観
学びの継続	生涯学習の正しい理解（子どもの親）

区分	内容
学びの継続	多忙な仕事、ICT機器に夢中など豊かに生きていく面でバランスの取れない社会状況
学びの継続	生涯学習で見落とされる視点 ①若い世代の巻き込み ②厳しい状況に置かれた方々への学び ③社会課題を解決していくための学び
学びの継続	最後にでた学校が意味を持つ「最終学歴社会」ではなく、心豊かに生きていくために必要なこと、学びたいことを学び続ける「最新学習歴」を更新し続ける「生涯学習社会」へ
学びの継続	出会いと学びは「しあわせになるための方法・手段」
学びの継続	人間を豊かにするために学ぶ。社会人になってからの学び直し
学びの継続	教育は大人を含め「未来」に続くもの
学びの継続	ビジネス界が従来の発想では立ちいかになくなっている中、社会人の学び直し（リカレント、リスキリング）が重要になっている。
地域の持続性	災害を想定した学びの実践によって、人的な被害が少なくなった
地域の持続性	地域課題の解決に向けた学びの場や講座が必要であり、そのための制度や政策が必要
地域の持続性	今の子ども達だけでなく、30年後、50年後の子どもたちに今の学びが反映されて、豊かで心地よい生き方ができる世界を保障することが必要
地域の持続性	公民館活動は、学んだことを地域に戻って広げ、地域の自治力を高めることが大切な柱
地域の持続性	集落の歴史など地域の足元を知ることは大事
地域の持続性	いろいろな地域があるが、その地域で暮らすということの価値観が大切
地域の持続性	地域の文化遺産、歴史、文学などの伝承が世代をつなぐツールになるのではないか
地域の持続性	生活での困り感の共有がつながるきっかけになるのではないか
地域の持続性	地域の持続性、災害、若者
地域の持続性	地方で一般的な学校教育の価値観でやっていくと、若者がどんどん都会に流出していく
地域の持続性	地域と都会の関係性
地域の持続性	高等教育機関が少ない地域での教育の確保
地域の持続性	災害時などに重要になるため区内でのつながりをしっかりつくるためにも、公民館活動への参加の促進が必要である
地域の持続性	高校から社会にでるというキャリアを磨けば地域に人を残すことができる
地域の持続性	社会福祉法人による地域福祉や地域づくりへの貢献を促進したい
地域の持続性	地域の歴史や資源の再認識
地域の持続性	コロナ禍で進んだネット社会に対応した公民館のあり方
地域の持続性	普段関わらない人が地域に関わることができる場ができることができると学びにつながる
学校と地域	キャリアパスポートが学校教育から生涯学習につながるのではないか
学校と地域	小～大学まで学校がどう地域と関わるのかが重要
学校と地域	学びたいと思ったときに学べるような環境を整える（大学）
学校と地域	地域に開かれた大学

区分	内容
学校と地域	大学のDX講座を社会人に提供できないか
学校と地域	学校と地域を結び、地域課題解決に向けた学習の地域側の推進役となるコーディネーターの確保が難しい
学校と地域	地域と学校の協働活動に関わる教員の負担
学校と地域	教育行政との連携によるコミュニティスクールの利活用
学校と地域	学校教育における体験活動や情操教育の充実
学校と地域	高校生が地域の様々な年代の大人と一緒に考える機会はとても大切
連携・協働	学校と地域を結ぶコーディネーターの存在が重要
連携・協働	コーディネートをするという視点の人の人材育成というのは非常に重要
連携・協働	様々な分野の意見や活動が関連していない、連携が取れていない
連携・協働	生涯学習を推進する上での人材、マンパワーの不足
連携・協働	市町村ボランティアセンターと社会教育分野との連携促進
連携・協働	連携がとりにくい環境をどう解決するか
連携・協働	関連性があっても各団体や地域ごとで線引きして連携ができない
連携・協働	担当者が変わると引き継がれない
連携・協働	行政の適切な規制緩和が望まれる。例えば公民館で有償の講座も開講できるようにするとか社会に合わせた見直しを